

品格ある学校を目指して

校長 笠井 紀世史

本年四月に本校に着任いたしました。もとより浅学非才の身でございますが、本校教育の充実・発展に全力を尽くす覚悟であります。同窓会員の皆様におかれましては、なお一層の御支援、御協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

さて、三年ほど前にお茶の水女子大学の藤原正彦先生が「国家の品格」という本を上梓され、ベストセラーになりました。この本が書かれて以来、「さの品格」という言葉が流行語になった感があります。「品格」という言葉を辞書で調べると、「品位、気品」とあります。抽象的で分かりにくいんですが、「品格」に対する言葉は、「下品」とか「卑怯」とかという言葉ですので、品格とは、「他人が不快に思っ顔をしなめるような行為をしない、人を貶めるような卑劣な行為をしない、気高く、誇り高く、自信に満ちている状態」というように定義づけることができると思います。

では、学校の品格とは何でしょうか。藤原先生は、品格ある国家の指標として次の四点をあげています。「独立不羈」、「高い道徳」、「美の存在」、「天才の輩出」。これらを学校に当てはめて、「学校の品格」とは何かを私なりに考えてみました。

一つは、学校が「独自性をもっていること」です。例えば、本校では47分授業8分放課という学校時を設定しています。今でこそ同様のシステムを採用している学校の数は増えてきていますが、県内では本校が他校に先駆けてこのシステムを導入したのではないかと

思います。学習指導だけでなく、学校行事、部活動などの分野で、本校だからこそできる教育活動がたくさんあります。それらを発展進化させていきたいと思っております。

もう一つは、「美の存在」です。外面的な美と内面的な美があると思えますが、外面的には、学ぶ環境を整えることです。清掃の徹底や身だしなみを整えさせるといったことは最初になすべきことであると思えます。校舎の中が汚かったり、生徒がだらしない格好をしているようでは、品格ある学校とは言えません。内面的な美という観点からは、「高い道徳性」をもつこと、つまり生徒、教師がそれぞれの立場をきちんと理解し、行動できることです。生徒が必ずべき基本となることは、ルールとマナーを守ることです。校則を守ることは当然であります。状況に応じた「適切な言葉遣い」と「礼儀」も西高生としての品位を保つ大事な要素であると思えます。

最後の一つは、「世に名を残す卒業生を多く出すこと」です。生徒一人一人の得意とする分野の能力をさらに磨き、後に続く後輩が誇りに思う傑出した人物を数多く世に送り出したいと思っております。今在校している生徒の中から西高といえればあの人というような西高卒業生の代名詞になる人物が出ることを期待しています。

以上、「学校の品位・品格」について私見を述べてきました。最後に作家の田辺聖子さんのエッセイの中に「人間の気品」について触れた言葉があったので、その一部を紹介したいと思います。「現代でいちばん地を払ったのは、人間の気品である。品のある人というのを見ないこと、久しきりというのではなく、いろいろ

なタイプの品位があると思う。いつもよく考え続ける人の人生観から出る品。生まれ育ちからくる品。一つの道をきわめたことから出る品。このうちどれか一つでもあればいい。」

昨年度の総会報告

平成十九年度の総会は、八月十一日(土)午後五時より、一宮スポーツ文化センターで行われました。二回生・二十二回生を中心として、総勢百十四名の方々に参加していただきました。また、ご多忙にもかかわらず、歴代の校長先生をはじめ、懐かしい旧担任の先生方、現職員の先生方にもご出席いただきました。

総会では、平成十八年度の事業報告・会計報告、役員改選、平成十九年度の事業計画・予算案の審議、同窓会費納入に伴う会則改正案の審議と、滞りなく議事を進めることができました。総会でもご報告させていただきましたように、同窓会報郵送料カンパでは多くの方に協力いただき、重ねてお礼申し上げます。

懇親会では、学年同窓会を担当した二回生・二十二回生に新会員の四十一回生を加え、若々しい雰囲気の中で盛り上がりました。各テーブルでは、昔話に花が咲き、時が経つのも忘れて旧交を温めることができました。懇親会を締めくくる校歌斉唱も恒例になり、名残りが尽きないままお開きとなりました。

今後も学年同窓会の担当学年を二年とし、同窓会総会をより活性化しようという計画しております。

東京支部同窓会

38回生 大津 英紀

また、担当学年にかかわらず、クラス会や部活動のOB会の場合としても同窓会総会を大いに活用していただけたら幸いと考えております。今年度の総会に、是非皆様お誘い合わせの上、気軽に参加していただきますようお願い申し上げます。

昨年(11月17日(土))に新宿にて一宮西高校東京支部同窓会が行われ、母校からは平澤先生、入野先生にお越しいただきました。総勢で36名と昨年を越える大人数で、50階から見渡すことのできる東京の夜景の影響もあり、参加者みな和気藹々と話し合う、落ち着いた雰囲気の中、同窓会でした。2次会にも大勢参加していただき、席が足りなくなるハプニングがありました。多少の窮屈さも気にならず、幹事として話をしていく様子を見て、幹事として安心した一方で、協調性のある皆さん、そして同窓会の進行を手伝ってくださった同期や先輩方への感謝の気持ちでいっぱいになりました。本当にありがとうございます。

この同窓会には、第1回東京支部同窓会の参加者である2回生の先輩が参加していただき、東京支部同窓会を開催したきっかけや当時の様子を伺うことができました。そして、歴史ある東京支部同窓会をこれからも絶やさず恒例の行事にしていきたいと強く思いました。さらに、この西高同窓会で強い絆が生まれたと思えました。参加してくださった皆さんとの準備や進行の過程において団結力を強めることができ、これからの同

窓会の繁栄に繋がると実感しています。そして、今年11月に行われる東京支部同窓会は、間違いなく昨年を上回る盛大な同窓会になることでしょう。同窓会に参加することで、久しく会っていない先生・同期の友人たちと記憶をたどり、高校時代を懐かしく思うとともに、在学中には関わることのできなかった先輩から様々な価値観や助言を得ることで、自分を見つめ直し、充実した時間を過ごすことができると思います。

同窓会のことを振り返った今では、世代を超えて協力し合う楽しさと、年代が離れていても積極的に協力してくださった先輩たちの優しさに浸ることができ、幹事を引き受けて本当に良かったと思っております。

最後になりましたが、参加者の皆さん！お忙しい中、参加していただきありがとうございます。今年の同窓会も皆さんの心に残るような有意義な同窓会にしていきたいです。また、まだ参加されたことのない皆さんもぜひ参加していただきたいと思っております。

転任の先生からのメッセージ

思い出

伊藤 一

私は、平成四年に一宮西高校に赴任しました。以来十六年間、本当に充実した毎日をごさせていただきました。これも、素晴らしい生徒や同窓会の皆さん、数多くの先生方と出会い、教育に携われた御蔭と感謝しております。本当にありがとうございます。西高に着任して間もない頃、ベテランの先生から「どうしたん